



吉田 直樹 建設部門（道路）

勤務先：北海道土木設計株式会社 地質防災部 TEL 011-231-6321（代表）

私は、昭和 39 年に札幌市で生まれ、その後両親の転勤に伴い道内を転々といたしました。昭和 61 年（1986 年）学校卒業とともに北海道土木設計株式会社に入社し、以来道路や各種の構造物の設計部署を経て現在は地質防災部に所属しております。

少々宣伝をさせていただきますと、当部は斜面对策や地滑り対策、トンネルなどの防災施設設計、軟弱地盤対策工設計及び地質調査解析を専門とする部署であります。

土木構造物は、色々ありますがその中でも特に地質状況と密接な関係がある防災施設設計や軟弱地盤対策工設計等を調査計画から解析、設計、施工管理に至るまで一貫して対応できるように組織された部署です。

最近では、世界自然遺産に登録された知床カムイワッカ付近の落石及び岩盤崩壊対策の調査、設計をさせて頂きました。

ここでは業務を通し多くの関係者の方々がこの自然を守るため苦勞されているのに接し改めて自然の大切さを実感いたしました。調査、設計に際しても、既存樹木の保護や環境負荷を最小限に抑える工法の検討や工事期間の制約などの厳しい条件でしたが無事克服し道路利用者の安全を確保するべく現在工事中です。

今後も、自然と構造物との調和を図りつつ道民の安全性と利便性の向上のため日々研鑽を積みたいと考えます。



次号は、田村智樹さん（建設部門）



堅田 豊 機械（建設、鉱山、荷役及び運搬機械）／総合技術監理部門

勤務先：川崎重工業株式会社北海道支社

私は、昭和 47 年から国道の除雪機械の技術開発、維持管理に 30 年間程携わりました。昭和 40 年代は、急速な経済発展に伴う道路整備と除雪延長の増が、現在の除雪機械の原型である除雪トラック、ロータリ除雪車等の大型、高馬力化が推し進められ、また冬季オリンピックを契機とした歩道除雪の試行と小形除雪車の開発等、技術史的には注目される時代でした。その後、平成 2 年のスパイクタイヤ着用禁止という大きな節目を迎えて、凍結防止剤散布車等の導入が図られ、昨今は道路除雪費の低迷するなかで、効率的、効果的な除雪が課題となっております。

さて、我が家の小宅前の除雪に目を向けますと、運動不足になりがちな北海道の冬場において、降雪時、ママさんダンプで雪捨て場に排雪しながら、健康な汗をかき、ご近所と「よく降りますね」という言葉を交わすのが、冬場のささやかな楽しみの一つでもありました。しかし、空き地にも家が建ち、近くに雪捨て場の確保が困難となり、ロードヒーティング、融雪槽等の近代兵器のお世話になろうとした矢先に、民間業者が、運搬排雪を個人から請け負う「排雪サービス業」なるものが流行始め、ご近所の玄関前に、請負確認の錦の御旗が、多数はためくご時世になってきております。私の関与した小形除雪車・ロータリ除雪車の動く姿が、民間企業の発想の転換により、ハードな雪捨て作業から開放してくれるということに、小さな驚きを禁じえません。

これから、厄介者の雪と付き合いつつ、小宅周辺の道路を、機械除雪の新たな工夫等で、冬、快適に暮らすことができないかと、考えを巡らす季節が到来します。



次号は、佐々木勝介さん（機械部門）